議　事　録

第１回研究班総会議事録

日　時　　昭和５０年５月２４日　　１３：３０－１６：１０

場　所　　東京医科歯科大学本部会議室

出席者　　井上英二（主任研究者），荒川雅男，松永英，田中克己，半田順俊（以上幹事），岡田善雄，美甘和哉，佐々木本道，古庄敏行，大浦敏明，藤木典生，大倉興司，桑木務（以上分担研究者），尾崎公巳，荻田幸雄，林昭，成瀬浩（以上分担研究者代理），和田義郎，池田澄子（以上オブザーバー），玉木技官（厚生省母子衛生課），津田威（経理事務担当者），野崎郁子（研究班事務担当）

議　　事

1. 井上から挨拶の後，本研究班の性格について説明があった。
2. 玉木技官から，厚生省の立場についてのべられた。
3. 昭和４９年度の研究成果について，井上より資料によって説明があった。
4. 昭和５０年度の研究班の構成，研究課題，予算，年間事業予定について，井上より資料によって説明があった。
5. 申請と経理手続きの変更について説明があり，とくに各分担研究者は収支簿を整備するよう，要望があった。なお，収支簿の記載法については，厚生省当局で検討する旨のべられ，これを含めて，手続きに関する書類を主任研究者より各分担研究者へ配布することになった。
6. 玉木技官より，心身障害研究班全体について説明があり，厚生省の姿勢についての質疑と応答があった。
7. その他，研究協力者名簿の提出，刊行成果別刷の送付について説明があり，本補助金の英訳は次のように決定された。

   Grant Aided by the Ministry of Health and Wlfare of Japan for the Research on Handicapped Children, 19XX.

第２回研究班総会議事録

日　時　　昭和５１年３月６日　　９：００－１６：００

場　所　　東京医科歯科大学本部会議室

出席者　　井上英二（主任研究者），井関尚栄，高原滋夫（以上評価委員），荒川雅男，松永英，田中嘉己，半田順俊（以上幹事），岡田善雄，荻田善一，須川佶，美甘和哉，佐々木本道，古庄敏行，大浦敏明，藤木典生，大倉興司，桑木務（以上分担研究者），尾崎公巳，林昭，成瀬浩，荻田幸雄，松本雅彦，一色玄，和田義郎，山村研一（以上研究協力者およびオブザーバー）津田威（経理事務担当者），野崎郁子（研究班事務担当）

議　事

井上より挨拶があり，ついで下記の次第で，各班員より，昭和５０年度の研究成果報告と，これについての質疑応答が行なわれた。なお昼休みを利用して，昭和５０年度研究成果および経理報告，同５１年度の申請について打合せが行なわれた。

昭和５０年度研究成果報告次第

副課題１　　座長　荒川雅男

先天性代謝異常症の細胞学的診断に関する研究　　岡田善雄

先天性代謝異常症とその保因者診断法に関する研究　　荻田善一

羊水と羊水細胞の生理学的研究　　尾崎公巳（倉智敬一代理）

羊水細胞培養法の研究　　須川佶

松本雅彦

先天性代謝異常症の診断ならびに治療に関する研究　　荒川雅男

和田義郎

先天性代謝異常症・分子病の発生予防に関する遺伝生化学的研究　　林昭（山村雄一代理）

副課題２　　座長　松永英

染色体異常個体の有病率と発生率に関する研究　　松永英

染色体突然変異原に関する研究　　美甘和哉

染色体検査技術の水準向上とその応用に関する研究　　佐々木　本　道

副　課　題　3　　座長　井　上　英　二

経験的遺伝予后に関する研究　　古　庄　敏　行

双生児法による心身障害の成因に関する研究　　井　上　英　二

遺伝性障害に関する資料の相互利用に関する研究　　大　浦　敏　明

副　課　題　4　　座長　田　中　克　己

先天性代謝異常症のスクリーニングに関する研究

成瀬　浩（森山　豊代理）

集団の遺伝的荷重に及ぼす諸要因の影響に関する研究　　松　永　　英

日本人集団における有害遺伝子の頻度，とくに自然淘汰，突然変異率，ならびに近親婚の影響　　田　中　克　己

副　課　題　5　　座長　半　田　順　俊

心身障害予防法の遺伝学的適応に関する研究　　藤　木　典　生

遺伝相談資料の整備とネットワーク運営に関する研究　　半　田　順　俊

遺伝カウンセラーの教育と研修に関する研究　　大　倉　興　司

遺伝医学と倫理に関する研究　　桑　木　　務

総合討論

第１回幹事会議事録

日　時　　昭和５０年５月２４日　１１：００－１３：００

場　所　　東京医科歯科大学１号棟会議室

出席者　　井上英二（主任研究者），荒川雅男，松永英，田中克己，半田順俊（以上幹事），和田義郎（荒川班事務担当），玉木技官，石田事務官（以上厚生省母子衛生課），津田威（経理事務担当者），野崎郁子（研究班事務担当）

報　　告

1. 井上より，会計監事として外村晶，松永英両氏が委嘱されたとの報告が

あった。

2. 昭和４９年度実績報告書作成の進行状況について，各幹事より報告があった。

3. 昭和５０年度予算について，玉木技官より作業の進行状況と総額と節約額の見通しについて報告があった。

議　事

1. 染色体突然変異原候補物質のリスト，および黄体ホルモンに関する意見は，それぞれ美甘班員，松永幹事が用意することになった。

2. 半田班の作業については，ワークショップの追跡を行なうことになった。

3. 他の研究班との合同で行なう疫学調査に関する連絡会に，松永幹事が出席することになった。

4. 申請について次の変更があった。

イ）研究課題の概要は書式が変更された。

ロ）事業計画は各幹事が作成する。

5. 経理報告について

イ）各分担者は，経理報告を直接主任研究者に提出し，主任研究者は厚生省へ提出する報告の写を各幹事に送付する。

ロ）支出費明細書は研究協力者が分担研究者へ報告する際に用いる。各分担研究者は支出済額内訳書の書式を用いる。

6. その他

研究成果の別刷は，その都度母子衛生課を経由して厚生大臣に提出する。

第２回幹事会議事録

日　時　　昭和５１年２月７日　１３：００－１６：００

場　所　　学士会館

出席者　　井上英二（主任研究者），松永英，田中克己，半田順後（以上幹事）和田義郎（荒川幹事代理），大倉興司（半田班事務担当），小林秀資（厚生省母子衛生課技官），野崎郁子（研究班事務担当）

議　事

1. 昭和５０年度報告（経理報告，研究報告，業績報告）の内容および期限

について協議した。

2. 昭和５１年度業績報告は，５１年度予算で印刷・配布することとなった。

3. 昭和５１年度申請に関する書類提出は，昭和５０年度通りとすることになった。

4. 昭和５１年度の副課題，細分課題，分担研究者，研究協力者，研究費項目別概算については，次回幹事会で決定することとなった。

5. 昭和５２年以降の研究計画について，井上の原案に基いて協議を行なった結果，以下が了承された。

イ．昭和５１年までの研究班組織を，原則として編成替えを行なう。

ロ．以下の４副課題を原案として，今後検討を行なう。

(1) 遺伝相談業務を back up するための研究。

(2) モニタリングに関する研究。

(3) 遺伝性疾患の診断法の開発。

(4) 病因究明の研究，とくに複雑な遺伝的要因による疾患の病因究明の方法論の開発。

第３回幹事会議事録

日　時　　昭和５１年３月６日　　１６：００－１７：００

場　所　　東京医科歯科大学本部会議室

出席者　　井上英二（主任研究者），荒川雅男，松永英，田中克己，半田順俊（以上幹事），北川定謙（厚生省母子衛生課長），小林秀資（同技官），中原俊隆（同技官），和田義郎（荒川班事務担当）

議　　事

1. 出席者より，研究班総会における昭和５０年度研究成果報告についての意見がのべられた。

2. 昭和５１年度の申請課題について，全体の課題名，副課題名については原案通り承認された。

3. 昭和５１年度の細分課題名について検討され，細分課題５，１４，１５について以下のように修正の上承認された。

細分課題５　　先天性代謝異常症の診断に関する研究

同　　１４　　集団の遺伝的荷重に及ぼす遺伝病治療の影響に関する研究

同　　１５　　遺伝性疾患の頻度ならびにこれに影響する諸要因の研究

4. 分担研究者と研究協力者の氏名，所属，役職，最終卒業学校名と年度，現在の専門等についての紹介が行なわれ，承認された。

5. 昭和５１年度の研究費概算が審査され，修正の上承認された。

評価委員会議事録

日　時　　昭和５１年３月６日　　１６：００－１７：００

場　所　　東京医科歯科大学本部会議室

出席者　　井関尚栄，高原滋夫（以上評価委員），野崎郁子（研究班事務担当）

議　事　　研究班総会における各分担研究者による昭和５０年度研究成果報告について審議し，下記の意見を幹事会に提出することが了承された。

1. この研究班は，他の研究班に比べて分担者が実によく研究を進めていると思う。

2. 人類遺伝学は医学において大変重要であるから，再編成して更に継続されることを望む。

3. この班としては，基礎的研究にかたよることなく，厚生行政に反映するような研究を進めることが主旨に沿うものと思う。

4. 染色体検査技術と先天性代謝異常症のスクリーニングの方法の向上をはかると共に，社会的なものとして，遺伝相談システム及び遺伝カウンセラーの養成を行政的に進めてもらいたい。

幹事評価委員合同委員会議事録

日　時　　昭和５１年３月６日　　１７：００－１９：３０

場　所　　東京医科歯科大学本部会議室

出席者　　井上英二（主任研究者），井関尚栄，高原滋夫（以上評価委員），荒川雅男，松永英，田中克己，半田順俊（以上幹事），和田義郎（荒川班事務担当），北川定謙（厚生省母子衛生課長），小林秀資（同技官），中原俊隆（同技官），津田威（経理事務担当者），野崎郁子（研究事務担当）

議　事

1. 評価委員会の意見に基き，以下の方針で今後の研究を進めることが了承された。

イ）指摘された事項に重点をおいて昭和５１年度の研究を行なう。

ロ）昭和５２年度より，研究班を再編成することを検討する。

ハ）厚生省に対しては，遺伝カウンセラーの養成について要望する。

2. 厚生省より，先天性代謝異常症のスクリーニングについては，検討中である旨がのべられた。

3. その他心身障害の発生予防に関連する全般的な問題について意見の交換が行なわれた。

分　科　会　議　事　録

副課題１（第１回）

日　時　昭和５０年６月２７日（金）　１４：００－１８：００

場　所　私学会館（東京都）

出席者　井上英二（主任研究者），荒川雅男（幹事），岡田善雄（分担研究者）松田一郎，三輪史朗，北川照男，多田啓也，藪内百治，鈴木義之，宮地隆興（以上研究協力者），荒島真一郎，林昭，荻田幸雄，尾崎公巳，田中亀代次，中村了正，大和田操，山中龍宏，魏昭進，福岡和子，豊徹，岡田伸太郎，上田智，和田義郎（以上オブザーバー及び荒川班事務担当）

議　事

1. 荒川より昨年度に引続いて厚生省班研究が行われることになって改めて班員を委嘱した旨の報告と挨拶があった。

2. 井上から厚生省の研究班に対する態度と研究方法に関する要望として具体的に福祉行政に直接結びつくものが期待されている旨の説明があった。

3. 和田より事務上の取扱いについて昨年度のものと比較し変更になった部分の説明があり若干の質疑応答がなされた。

4. 其後は以下の次第に従って分担研究者と研究協力者から研究計画の発表と討論が行われ定刻に散会した。

昭和５０年度研究計画

色素性乾皮症　今後の研究方向について

田　中　亀代次　（阪大・微研）

羊水代謝について

尾　崎　公　巳　（阪大・産婦人科）

羊水細胞培養法の改良ならびに簡便化に関する検討

荻　田　幸　雄　（阪市大・産婦人科）

先天性核酸代謝異常症の診断と治療

和　田　義　郎　・　荒　川　雅　男　（東北大・小児科）

先天性代謝異常症の出生前診断

多　田　啓　也　（阪市大・小児科）

ゴーシエ病の遺伝的異質性と胎児診断

北　川　照　男　（日大・小児科）

複合糖質代謝異常症の病態生化学とその診断

鈴　木　義　之　（東大・小児科）

先天性代謝異常症における尿中オリゴ糖の診断的意義

藪　内　百　治　（阪大・小児科）

Ｉ－cell 病の羊水診断

松　田　一　郎　（北大・小児科）

赤血球機能異常とその代償機構

林　　昭　（阪大・内科）

倉敷で発見された異常血色素症およびタイ人より検出されたＨｂH症について

上　田　　智　（川崎医大・中検）

赤血球酵素異常症

三　輪　史　朗　（山口大・内科）

異常ヘモグロビン症及び胎児ヘモグロビン（ＨｂF）の臨床と遺伝に関する研究

宮　地　隆　興　（山口大・中検）

副課題１（第２回）

日　時　昭和５１年１月３１日（土）　１４：００－１８：１５

場　所　艮陵会館　（仙台市）

出席者　荒川雅男（幹事），岡田善雄，須川佶（以上分担研究者），松田一郎，鈴木義之，北川照男，宮地隆興，藪内百治，多田啓也，三輪史朗（以上研究協力者），荻田幸雄，松本雅彦，山村研一，岡田伸太郎，荒島真一郎，田中亀代次，大和田操，崎山武志，尾崎公巳，井内岩夫，上田智，斉藤峻，早坂清，和田義郎（以上オブザーバー及び荒川班事務担当）

議　事

1. 荒川より昭和５０年度厚生省研究班における班員の研究協力に対して謝辞が述べられた。
2. 和田より研究費の決算書類を３月中旬までに提出してほしいこと，業績報告については主任研究者から連絡あり次第締切日を設定する方針であること及び研究費追加配分は予定よりは遅れるが行われる見込みであることなどについて説明があった。
3. 其後は下記次第の順に昭和５０年度の研究成果報告が行われ，熱のこもった質疑が交される内定刻となり閉会した。

昭和５０年度研究成果報告次第

ＸＰ細胞の機能回復におけるT_4エンドヌクレアーゼＶの特異的役割

田中亀代次・岡田善雄（阪大・微研）

先天性代謝異常症とその保因者診断法に関する研究

荻田善一（阪大・遺伝）

羊水中高分子物質の動態について

尾崎公巳（阪大・産婦人科）

羊水細胞培養に関する研究，およびＣＰＣシステムによる新生児黄疸予測法

荻田幸雄・須川佶・松本雅彦（阪市大・産婦人科）

ＰＲＰＰ合成酵素欠損による低尿酸血症（Ⅱ）

和田義郎・荒川雅男（東北大・小児科）

Tay－Sachs 病の出生前診断　Retrospective study

多　田　啓　也　（阪市大・小児科）

I－cell 病の生化学的研究

北　川　照　男　・　崎　山　武　志　（日大・小児科）

Tay－Sachs病出生前診断例の検討

鈴　木　義　之　（東大・小児科）

代謝異常症における尿中オリゴ糖の診断的意義

藪　内　百　治　（阪大・小児科）

フコシドーシスの羊水診断及びフコシドーシス胎児の電顕像

松　田　一　郎　・　荒　島　真一郎　（北大・小児科）

ヘモグロビン弘前症の赤血球機能

林　　昭　（阪大・内科）

昭和５０年岡山地区における異常血色素サーベイ報告

柴　田　　進　・　上　田　　智　（川崎医大・内科）

最近見出された α－Thalassemia の１例

柴　田　　進　（川崎医大・内科）

井　内　岩　夫　・　日　高　和　夫　（川崎医大・生化学）

赤血球酵素異常による溶血性貧血

三　輪　史　朗　（山口大・内科）

新しく発見された異常ヘモグロビン（Hb Karatsu）

宮　地　隆　興　（山口大・中検）

副　課　題　2

日　時　昭和５１年２月２１日　１０：００－１７：３０

場　所　東京医科歯科大学１号棟会議室

出席者　松永　英，佐々木本道，美甘和哉（以上分担研究者），日暮　真，浅香昭雄，外村　晶，阿波章夫，佐々木正夫，中込弥男，宇多小路　正，有馬正高，黒木良和，飯沼和三，飯島久美子，小野和郎，鈴木康之，高木信夫，青木裕子，竹内尚子，岸　邦和，多田愛子，南光進一郎，松井一郎，山本佳史，祖父尼俊雄，岡　成寛，横山　宏（以上研究協力者およびオブザーバー），津田威（経理事務担当者）

議　事

1. 別紙次第に従って，細分課題７，８，９の分担研究者並びに研究協力者より，研究成果の発表があり，それに対する討論がなされた。
2. 津田より，経理関係の説明がなされた。

昭和５０年度研究成果報告次第

1.	浅香　昭雄：細分課題７	１０：００～１０：２５
2.	外村　　晶：　〃	１０：２５～１０：５０
3.	松永　　英：　〃	１０：５０～１１：１５
4.	阿波　章夫：　〃	１１：１５～１１：４０
5.	有馬　正高：　〃	１１：４０～１２：０５
	昼　　食（事務報告等）	１２：０５～１３：０５
6.	日暮　　真：細分課題８，９	１３：０５～１３：４５
7.	佐々木本道：　〃　８，１０	１３：４５～１４：２５
8.	美甘　和哉：細分課題９	１４：２５～１４：５０
9.	佐々木正夫：　〃	１４：５０～１５：１５
	休　　憩	１５：１５～１５：４５
１０.	小西　俊造：細分課題１０	１５：４５～１６：１０
１１.	宇多小路正：　〃	１６：１０～１６：３５
１２.	中込　弥男：　〃	１６：３５～１７：００
１３.	黒木　良和：　〃	１７：００～１７：２５

副　課　題　３

細分課題１０（第１回）

日　時　昭和５０年７月１２日　　１１：００－１６：００

場　所　東京医科歯科大学１号棟会議室

出席者　井上英二（主任研究者），古庄敏行（分担研究者），中島章，市川宏，福山幸夫，古賀慶次郎，古屋光太郎，西田尚史，日暮真，荻野洋一，納光弘，竹中静広，陣内冨男，工藤昭夫，山口雅也，有馬正高，近藤喜代太郎，佐々木元賢（以上研究協力者）

議　事

調査進行状態の報告，分析についての打合せなど行った。

細分課題１０（第２回）

日　時　昭和５０年１０月９日　　１３：３０－１５：３０

場　所　東京医科歯科大学１号棟会議室

出席者　古庄敏行（分担研究者），松岡久栄，日暮眞，古賀慶次郎，荻野洋一，西田尚史，星栄一，川室茂子，佐竹成子，谷村雅子，早瀬玲子（以上研究協力者およびオブザーバー）

議　事

コード表記入についての打合せを行なった。

細分課題１０（第３回）

日　時　昭和５０年１１月９日　　１０：００－１１：３０

場　所　都市センター本館１階第３会議室

出席者　古庄敏行（分担研究者），工藤昭夫，近藤喜代太郎，山口雅也，陣内冨男，納光弘，佐々木元賢，有馬正高，竹中静広，日暮真（以上研究協力者）

議　事

コード表記入についての打合せを継続した。

細　分　課　題　１１

日　時　昭和５０年７月１０日　　１１：００－１７：００

場　所　学士会館分館，および東大脳研

出席者　井上英二，田中克己，和田義郎（以上分担研究者および代理），平山清武，松井一郎，古庄敏行，仲間智隆，陣内冨男，浅香昭雄（以上研究協力者およびオブザーバー），津田威（経理事務担当者）

議　事

1. 井上より，昭和４９年度成果の総括報告と，昭和５０年度の遺伝研究班の構成，研究課題等について説明があった。

2. 津田より，研究協力者が行なう経理事務について説明があり，質疑が行なわれた。

3. 松井（神奈川県），平山（沖縄県），古庄（鹿児島県），陣内（熊本県）より，それぞれ従来の研究の経過，５０年度以降の計画，これと関連する他の研究の概要，およびそれぞれの地区における研究遂行上の問題点が報告された。

4. ついで，他の方法による双生児把握の可能性，資料管理の具体案等について協議が行なわれた。

5. ついで東大脳研に会場を移し，実際の資料と研究方法について，討議が行なわれた。

細分課題 12

日　時　昭和５１年２月７日　１３：００－１７：００

場　所　大阪市立労働会館

出席者　大浦敏明（分担研究者），川辺昌太，北川照男，一色玄（以上研究協力者），鶴原常雄，長谷豊，山本裕子，藤田敬之助（以上オブザーバー）

議　事

1. 大浦より本年度の事務手続に関して説明があった。

2. 以下の研究発表が行なわれた。

イ）川辺より，小児保健センターが集めた小児糖尿病資料を材料とし，特に家族歴を中心とした臨床遺伝学的解析結果が発表された。

ロ）一色より，同じ材料による臨床的データのまとめが発表された。特に自己免疫疾患および流行性耳下腺炎と水痘の感染と小児糖尿病発生との関連については，更に多数例についての検討が必要であるとの発言があった。

ハ）北川より，東京都における同一地区約２２万人の小中学生を２カ年連続尿糖スクリーニングした結果が発表され，実測値より小児糖尿病発生頻度は約１万人に１人と計算した旨報告された。

ニ）大浦より線維芽細胞の細胞バンクを設置する場合に必要な建築，設備，要員，維持費などの試算が発表された。

3. 昭和５１年度の研究計画

本年に引つづき小児糖尿病に関して，特に東京つぼみの会本部および丸山博氏と連絡をとり資料を集めることが了承された。尿糖スクリーニングに関しては，大阪においても可及的多数例について検討する。また先天性代謝異常症に関する特殊検査可能な施設のリストについては，鳥取大有馬正高氏と連絡をとることとなった。

副　課　題　4

細　分　課　題　13

日　時　昭和５１年２月２１日　　１０：００－１７：３０

場　所　私学会館

Ⅰ．班全体会議

出席者　　田中克己（幹事），森山豊（分担研究者），荒川雅男，和田義郎，有馬正高，松井晨，芝滝京子，浅井富美子，大浦敏明，上村勇，宮井潔，鶴原常雄，岡田喜篤，深津信子，北山和代，渡辺たつ，青木征治，三谷喜与史，五味渕政人，北川照男，大和田操，小島和彦，野沢延江，鈴木黎児，鈴木健，高坂睦年，鈴木義之，多田啓也，一色玄，塚田裕三，成瀬浩，加藤進昌，石井澄和，川村正彦，伊藤桂子，榎本和子，榎本仁志，梅田みほ子，熊代泉，鈴木直雄，皆川進，松田一郎，荒島真一郎，山下文雄，渋谷幸彦，近藤昌子（以上研究協力者およびオブザーバー），小林秀資（厚生省母子衛生課技官）

議　事

1. 研究報告　班員・協力者より１６題の発表が行われ，活発な質疑応答，討論がなされた。発表の概要は研究成果報告に記載のとおりである。

2. 研究班事務報告

3. 代謝異常マス・スクリーニングに関する情報交換

Ⅱ．班幹事会議

出席者　　森山豊（分担研究者），大浦敏明，五味渕政人，北川照男，成瀬浩，皆川進（以上研究協力者）

議　事

1）報告書作製についての打合せ

2）昭和51年度の班構成について

細分課題15（第1回）

日　時　昭和50年6月10日　　11：00－16：00

場　所　東京医科歯科第1特別会議室

出席者　田中克己（分担研究者），柳瀬敏幸，中島章，安田徳一，今泉洋子，近藤喜代太郎，藤木典生，谷村雅子，早瀬玲子（以上研究協力者およびオブザーバー）

議　事

1. 経過報告と事務処理の説明（田中）

2. 本年度研究計画を各出席者から発表し，それについて討議した結果，次のように決定した：中島・安田班員は眼疾患の年次推移を研究する。今泉班員は先天異常の国内分布の分析と致死相当量の推定のため調査研究する。近藤班員は神経・筋疾患の調査研究を行う。藤木班員は原因不明とされていた心身障害の遺伝成分を明らかにする。田中班員は各人当りのいとこの実数の変化を調べて今後における近親婚頻度を予測する。柳瀬班員は徹底的な文献調査により遺伝性疾患の詳細な目録を作成する。

細分課題15（第2回）

日　時　昭和51年1月19日　11：00－16：00

場　所　東京医科歯科大学第1特別会議室

出席者　田中克己（分担研究者），柳瀬敏幸，中島章，安田徳一，藤木典生，近藤喜代太郎，今泉洋子，谷村雅子，早瀬玲子，藤田淑子，矢沢興二，松岡久栄（以上研究協力者およびオブザーバー）

議　事

1. 経過報告，事務連絡（田中）

2. 本年の研究成果を各出席者から報告し，それについて討議した。

3. 来年度の研究方針と計画について協議した結果，本年度の研究を継続，

発展させ，3年計画の最終年度として，まとめを行うことにした。また3年計画完了後に残される重要な課題について意見の交換がなされた。

副　課　題　5

日　時　昭和５０年５月２３日

場　所　東京医科歯科大学

出席者　半田順俊，大倉興司，藤木典生，桑木務（以上分担研究者）

議　　事

1. 半田より本研究班の前年度の経過を報告し，本年度の目標と各細分課題のポイントを説明した。
2. 細分課題１７については，遺伝相談資料は前年通りに行うが，遺伝相談の現況と将来について日本人類遺伝学会遺伝相談ネットワーク委意会と協同して報告書の原案を作成すること，ならびに同じく染色体検索に関し，現在の問題点と将来のあり方に関する報告書の原案を作成する方針を決定した。
3. 細分課題１８については，本年度は医師に対する研修を１回，保健婦・助産婦学校の教員を主な対象とした研修を１回行い，研修と同時に教育法の開発を行うことを決定した。
4. 細分課題１６と１７は相互に共通する問題があるが，本年度も別個に問題点を検討し，特に細分課題１７では具体的な問題への配慮が強く望まれ，その方向で努力することが確認された。

細　分　課　題　16

日　時　昭和５１年１月２４日　　１４：００－１７：００

場　所　兵庫県須磨浦研修センター（兵庫県立こども病院）

出席者　藤木典生，大倉興司，半田順俊（以上分担研究者）松井一郎，鶴原常雄，中井哲郎，千代豪昭，玉木健雄（以上研究協力者およびオブザーバー）

議　　事

1. 藤木より事務報告および研究連絡事項について説明があった。
2. 各班員より，夫々の特色を生かした遺伝相談業務について報告され，多くの問題点について討議された。

3. また，これら遺伝学的適応を論ずるにあたって，心身障害に関する意識調査について報告があり，一層の啓蒙の必要性を改めて痛感した。

4. 来年度研究計画を協議し，遺伝相談の実態調査を継続し，具体的な相談例とその適応についての Workshop を今秋に開いて，討議を重ねると共に，意識調査の枠を広げて，これらの結果をふまえて，心身障害発生予防の遺伝学的適応についての一応のガイドラインを作成することを決定した。

細分課題１７（第１回）

日　時　昭和５０年９月２７日

場　所　東京医科歯科大学

出席者　半田順俊，大倉興司，藤木典生（以上分担研究者），松田健史，北川照男，角谷哲司（以上研究協力者）

議　事

1. 前年度の経過報告を行い，遺伝相談資料の作成配布は前年度と同様に半田，大倉を中心に行っている現況と本年度の目標を説明了承された。

2. 日本人類遺伝学会遺伝相談ネットワーク委員会と協同し，遺伝相談の現況と将来に関する報告書の原案を，半田，大倉，松田を中心に本年度末までに完成することを確認した。

3. 同じく，染色体の検索に関し，現在の問題点の将来のあり方に関する報告書を松田，角谷を中心に，数名の研究協力者と共に，本年度末までに資料の収集と，原案の一部をまとめることを確認した。

4. 遺伝相談の拠点を拡充するため，各保健医療機関，地方自治体等で遺伝相談部門の設置開設を計画している所に対し，本研究班員が積極的に協力し，その実現化を促進することを了承した。

細分課題１７（第２回）

日　時　昭和５０年１１月６日

場　所　日本都市センター

出席者　半田順俊，大倉興司，藤木典生（以上分担研究者），松田健史，古山順一，藤田弘子，千代豪昭，角谷哲司，佐々木本道（以上研究協力者お

よびオブザーバー）

議　事

1. 染色体の検索に関する現在の問題点と将来に関する報告書の原稿の一部を検討，内容と表現の訂正などを行った。
2. 一部に適切な資料がえられていないので，古山，藤田，千代を中心に資料収集の方法を本年度内に検討し，次年度に調査を行うことを確認した。
3. 現在一部に行われている不適正な染色体検索に対し，上記の報告書の完成をまたず，随時問題点を指摘し，医療過誤の起らぬよう努力することが了承された。

細分課題１７（第３回）

日　時　昭和５１年１月５日－９日

場　所　東京医科歯科大学

出席者　半田順俊，大倉興司（以上分担研究者），松田健史（以上研究協力者）

議　事

1. 遺伝相談の現況と将来に関する報告書の原稿について逐条検討し，訂正と修正を行った。
2. 全体的なバランスから，いくつかの項目を追加した。
3. 特に優生保護法との関係については十分な配慮を要するので，詳細に問題点を摘摘するか，あるいは簡単に設明するかを検討したが，結論はえられなかった。諸般の情勢を検討した上，少なくとも簡単な設明は附することとした。

細分課題１８（第１回）

日　時　昭和５０年７月１３日－１５日

場　所　東京医科歯科大学

出席者　大倉興司，半田順俊（以上分担研究者），松田健史（以上研究協力者）

議　事

1. 前年度に行った研修・教育の方法に関し，特に不備と考えられる問題を検討した。

2. 特に具体的に参加者が自ら行う演習の必要性が指摘され，カリキュラムと演習内容に関し具体的に検討した。

3. 視聴覚教材の有用性を検討し，3M社製のSound on slide Projecter を用いる方法が最適であることを確認し，これを用いたプログラム化した遺伝的危険率推定法の一連のスライドを研修までに作成することを決定した。

細分課題18（第2回）

日　時　昭和50年11月7日

場　所　日本都市センター

出席者　大倉興司，半田順俊（以上分担研究者），松田健史，吉岡章（以上研究協力者）

議　事

1. これまでの研修の効果を検討するため，同日行われた日本人類遺伝学会に出席した研修修了者35名の参加を求め，研修方法，カリキュラムその他について，具体的な意見を聴取した。

2. 合宿により，参加者相互の意見の交換を十分にし，また講師陣とも親密に意見を交換したいという希望，実際例について十分な時間をとって演習を行うべきであるといった貴重な意見がえられた。

3. 研修修了者のうち，直ちに遺伝相談業務を所属機関内で開始したもの，機関内で遺伝相談を開始する具体的検討を始めたもの，さらに地方自治体が業務として行うことを決定させた者など多数あり，研修は一般的にいって効果があったと評価された。

4. しかし，大学などを含めて，まだ遺伝相談に対する関心や認識の低い医師が多く，今後その啓豪に相当の努力の必要なことが確認された。

5. 分担研究者と研究協力者によって，次年度以後における研修カリキュラムの偏成に関し検討を行い，大幅に演習時間を増加することに決定した。

細分課題18（第3回）

日　時　昭和51年1月27日

場　所　金沢大学医学部

出席者　大倉興司，半田順俊（以上分担研究者），松田健史（以上研究協力者）

議　　事

1. 医師の研修カリキュラムを研修修了者の意見などを参考に検討した。
2. その結果，演習に相当の時間をさいたカリキュラムを設定し，それに伴う講義のあり方，演習教材について検討した。
3. 昭和５０年１２月に行った保健婦，助産婦学校の教員を主な対象とした研修結果の検討を行った。

細　分　課　題　１９

日　時　昭和５１年１月３１日　　１３：００－１７：３０

場　所　学士会館

出席者　井上英二（主任研究者），桑木務，半田順俊，藤木典生，大倉興司（以上分担研究者），渡辺格，宮本忍，植松正，合田周平，宇沢弘文（以上研究協力者およびオブザーバー）

議　　事

1. 井上より全体の研究の総括的説明があり，副課題５の位置づけ，さらに細分課題１９の必要性について根拠づけられた。
2. 副課題５に含まれる細分課題分担研究者相互間のテーマと現状につき各自の説明があり，相互連絡が図られた。
3. 細分課題１９独自の問題点について説明があり，全般を通じて活発な討論が交わされ，有意義であった。